

事業名	生徒指導費		
細事業名	巡回教育相談費	財務コード	155905
担当部課室	教育委員会	高校教育 課	指導 担当 (内線) 8312

## 事業の概要

実施期間	始期 S58 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 心に悩みや解決困難な問題を持ち不登校等で苦しんでいる県内の県立高等学校、特別支援学校及び私立高等学校の生徒やその保護者、指導する教職員。	その対象をどのような状態にして 悩みや問題が解決されている。	結果、何に結びつけるのか 心豊かで充実した学校生活の実現や不登校やいじめの問題等の減少
	教育相談の場を学校外に設定し、スクールカウンセラーによる教育相談の機会を提供し、心に持つ悩みや解決困難な問題の解決に向けてのカウンセリングを行う。		
事業の内容 主にH25年度	県内全ての公立・私立高等学校及び特別支援学校の生徒・保護者・教職員等を対象に、年4回の教育相談会を実施した。会場は学校外に設定、2名のスクールカウンセラー(SC)で教育相談を実施。相談時間は、1回1名のSCで14:00~16:30(相談者1名につき、30分~60分)。相談時間の年間合計、5時間(SC2名分)×4回=20時間 対象者16名(生徒5名、保護者10名、教員1名)		
	実施回	実施日	実施会場
	・第1回	H25. 6.12	県民会館
	・第2回	H25. 7.17	総合教育センター
	・第3回	H25. 9.18	南都留教育会館
	・第4回	H25.10.23	防災新館会議室
根拠法令等			

## 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	24年度	25年度		26年度	27年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	相談会対象者/年間	16名	16名	16名	16名	16名	目標設定の考え方 1回の相談会で4名(1名のSC当たり2名)実施を基準
	活動指標達成率 (実績値/目標値)			100.0 %			データの出典等 巡回教育相談の予算書
成果指標	相談に満足した者の割合	100%	100%	100%	100%	100%	目標設定の考え方 相談会へ参加して満足した者を100%とすることを目標とする。
	成果指標達成率 (実績値/目標値)			100.0 %			データの出典等 相談後のアンケート調査及び聴き取り
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	126 126		127 127	142 142	142 142		成果指標によらない成果
所要時間(直接分)	20 時間		20 時間	20 時間	18 時間		心に悩みや自分では解決困難な問題を持ち不登校等で悩んでいる生徒や、保護者の問題解決の一助となって、相談者の心の安定を図ることができている。校外に会場を設定することで、校内で相談しにくい事案についての相談の機会が確保されている。
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間		
所要時間計	20 時間		20 時間	20 時間	18 時間		
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円×所要時間)	41		41	41	37		

## これまでの事業の見直し・改善状況

平成18年度までは、相談を受ける担当者を、スクールカウンセラー1名と教育関係者1名の計2名で実施してきたが、相談内容が専門化していることから、平成19年度よりスクールカウンセラー(臨床心理士)2名で実施している。

**活動量と成果の判断(平成25年度の業績評価)**

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H25年度活動指標の達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)    b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)    c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)  
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記載すること
H25年度成果指標の達成率			
b	b		対象となる心に悩みや自分では解決困難な問題を持つ生徒・保護者・教職員が、相談会へ参加したことで満足し、生徒や、保護者の問題解決の一助となって、相談者の心の安定を図ることができている。校外に会場を設定することで、校内で相談しにくい事案についての相談の機会が確保されていることから、意図した成果はほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)    b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)    c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)    d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

**見直しの必要性(平成27年度に向けた改善等の考え方)**

一次評価(担当部局評価結果)

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	心に悩みや解決困難な問題を抱え不登校等で悩む生徒は多く、その保護者の苦悩や心労は計り知れないことから、今後もこの相談会は必要で有り、現状の経費は必要である。 今後は、相談対象者の募集や相談会の準備について効率化を図り、所要時間を削減していく。	k

・「以外の判断項目」の欄  
a: 目的の達成    b: 新たな課題への対応    c: 対象の変化    d: ニーズの変化    e: 法律・制度の改正    f: 民間等実施    g: 市町村等へ移管    h: 外部委託  
i: 経費節減    j: 類似事業と統合・連携    k: 所要時間の縮減    l: プロセスの改善    m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

**見直しの方向(平成27年度当初予算等での対応状況)**

見直しの方向	具体的な実施計画等	「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更		相談対象者の募集方法や相談会の準備について、各県立学校の生徒指導担当教員の協力により効率化を図り、所要時間を削減していく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること  
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること